

事務事業マネジメントシート(平成25年度実績と平成26年度計画)

平成27年 1月29日更新

事務事業名	スクラムチャレンジ参画事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連
総合計画	政策	3	働く人々が輝き続けるまちづくり		所属部	政策部	課長名 井村 幸弘
体系	施策	12	商工業の振興		所属課	商工振興課	担当者名 坂井 竹志
	基本事業	36	生産・販売力の強化		所属班	商工振興班	(内線) 1273
予算科目	会計一般	款 7	項 1	目 2	事業連番 11592	法令根拠	成果優先度評価結果 : ⑧ コスト削減優先度評価結果 : ⑥
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 25年度で終了 <input type="checkbox"/> 25年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 ~ 年度) <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (24 ~ 26 年度)	

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	県北5市6町(荒尾市・玉名市・山鹿市・菊池市・合志市・玉東町・和水町・南関町・長洲町・大津町・菊陽町)で「くまもと県北交流拡大プロジェクト実行委員会」を組織し、平成24年度から平成25年度にかけて、くまもと県北地域における2次交通アクセス及び3次交通アクセスの調査、検討、並びに観光ツアーの造成等による実証実験を行い、交流拡大の推進、販路拡大につなげるためのPR活動等を行なう。
【業務の流れ】	(交流拡大) 実行委員会出席、宿泊施設へのアンケート調査協力依頼、調査結果の分析、観光ツアー造成 (観光物産PR) 実行委員会出席、観光物産展への出展・PR、来場者及び出展者アンケート結果の分析
【主な予算費目】	負担金
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	特になし

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 25年度実績(25年度に行った主な活動)(DO)	26年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
(交流拡大) 実行委員会出席、宿泊施設へのアンケート調査協力依頼、調査結果の分析、観光ツアー造成 (観光物産PR) 実行委員会出席、観光物産展への出展・PR、来場者及び出展者アンケート結果の分析	県北魅力発信プロジェクト実行委員会事務局業務(スクラムチャレンジ事業申請、イベント業者との契約・調整、各団体への連絡・調整など)
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 予算の主な増減の理由
→ ア 実行委員会への出席回数	回 交流拡大プロジェクト実行委員会負担金の減
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
参加自治体(5市6町)	(単位) 市町
→ ア 実行委員会への参加自治体数	→ イ
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
県北地域の観光客の立ち寄り先等の現状調査や分析ができ、観光ツアー(バック)の造成や販路拡大につなげるためのPRができる。	(単位) 市町
→ ア 現状調査や分析ができた自治体数(交流拡大)	→ イ 販路拡大等につながるPRができた自治体数(観光物産PR)
*③成果指標設定の理由と26年度目標値設定の根拠	健全な経営がなされている。
	総トータルコスト 全体計画 ~26年度 0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	24年度実績(決算)	25年度実績(決算)	25年度目標(当初予算)	26年度実績(決算)	26年度目標(当初予算)	予定	見込	見込
① 活動指標	ア	回		5	3	10	4			
	イ									
② 対象指標	ア	市町		11	11	11	5			
	イ									
③ 成果指標	ア	市町		11	11	11	0			
	イ	市町		11	11	11	5			
投資入費量	財源内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
	一般財源	千円			995	994	514			
	(A) 事業費計	千円		0	995	994	514			
(A)のうち指定経費	千円		0	966	966	485				
(A)のうち時間外、特勤	千円		0	0	0	0				
人件費	正規職員従事人数	人		3	2	2	2			
	延べ業務時間	時間		202	60	200	200			
(B) 人件費計	千円		822	244	796	814				
トータルコスト(A)+(B)	千円		822	1,239	1,790	1,328				

事務事業名	スクラムチャレンジ参画事業	所属部	政策部	所属課	商工振興課
-------	---------------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部（SEE）

*原則は25年度の後評価、ただし複数年度事業は25年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①25年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】
	②26年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 (観光物産PR)参加自治体数が5団体に減少したため、スケールメリットを活かした取り組みができるか不安がある。各団体に多くの事業者出展を要請するとともに、福岡都市圏域におけるメディア等を活用したPRを実施することで達成可能である。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 来客数が増えれば、参加自治体のPRが十分にできたという成果に繋がる。新聞・タウン誌・テレビ等を活用したPRに力を入れ、来客数増を図る。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 県スクラムチャレンジ事業に参画しているものであるため
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 参加団体割による負担金であるため
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 必要最低限の人員及び業務時間で実施しているため
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 県北地域の自治体を対象とした観光振興を図る県事業であるため
	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 行政が行なう観光振興事業であるため、住民や地域・団体には移行できない。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

<p>(交流拡大) モニターツアー参加者からは好評であったが、本市に限って言えばそうではなかった。 (観光物産PR) 平成25年10月に福岡市役所前ふれあい広場で観光物産展を実施した。平日2日間にも関わらず約20000人の来場があり、盛況であったが、来場者の半数以上が通りすがりの来場者であった。</p>
--

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

<p>(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 <input type="checkbox"/>廃止 <input type="checkbox"/>休止 <input type="checkbox"/>目的再設定 <input type="checkbox"/>事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/>事業のやり方改善（有効性改善） <input type="checkbox"/>事業のやり方改善（効率性改善） <input type="checkbox"/>事業のやり方改善（公平性改善） <input type="checkbox"/>現状維持（従来通りで特に改革改善をしない） 【有効性改善】来客数が増えれば、参加自治体のPRが十分にできたという成果に繋がる。新聞・タウン誌・テレビ等を活用したPRに力を入れ、来客数増を図る。</p>	<p>(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持																					
	低下																					
<p>(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策 平成24年度に比べ参加団体が大幅に減少した。 平成27年度以降は廃止となる見込みである。</p>																						